

各 位



2015年6月24日

会社名 J C R ファーマ株式会社
代表者名 代表取締役会長兼社長 芦田 信
(東証1部 コード番号4552)
問合せ先 経営戦略部長 本多 裕
(TEL 0797-32-8591)

「2015-19年度 中期経営計画～飛躍～」の策定について

当社は、2015年度を起点とする5ヵ年中期経営計画（2020年3月末まで）を策定しましたので、お知らせいたします。

この中期経営計画では、当社が創業以来蓄積してきた様々な技術・経験が実を結び、新たなステージに入る意味合いで、キーコンセプトを「飛躍」としております。「一步先をゆく研究開発の推進」、「新しい事業展開による企業総合力の強化」、「営業体制と製品戦略の更なる強化」、「経営基盤の強化」の4つの重点項目を設定し、“グローバルで存在感のある研究開発型企業”を目指してまいります。

(概要)

1. JCR ファーマの目指す姿

当社は、創業当初から培ってきた、独自のバイオ技術、細胞治療・再生医療技術によりグローバルで存在感のある研究開発型企業を目指します。

2. キーコンセプト

「飛躍」新たなステージへ向けて飛躍の時

3. 目標達成のための重点項目

当社は、グローバルで存在感のある研究開発型企業へと飛躍するため、下記を重点項目として取り組んでまいります。

- ① 一步先をゆく研究開発の推進
- ② 新しい事業展開による企業総合力の強化
- ③ 営業体制と製品戦略の更なる強化
- ④ 経営基盤の強化

4. 連結数値目標

最終年度にあたる2019年度に売上高250億円の達成、研究開発プロジェクトの進展による研究開発費の増加を吸収して営業利益50億円へ利益拡大を目指します。

	2014年度（実績）	2019年度（目標）
売上高	168億円	250億円
営業利益	20億円	50億円

5. 今後の事業展開について

- 独自の遺伝子組換え医薬品開発技術である「J-MIG System」、「J-GlycoM」、「J-GlycoS」を活用し、グロウジェクト事業、ESA 事業、希少疾病領域に新たな製品を投入します。
- 本年中に製造販売承認取得を予定している日本初の他家細胞による再生医療等製品 JR-031（間葉系幹細胞）の発売により、業績の継続的な拡大をはかっていきます。
- 新しい事業展開として、BBB 通過技術「J-Brain Cargo」など、当社独自技術の国内外へのライセンスビジネスを進めてまいります。
- 世界基準に対応した生産・品質保証体制により創製される自社開発品目のグローバル展開をパートナー企業とのアライアンスにより推進します。
- 細胞治療・再生医療技術を新たな研究開発の軸に位置付け、JR-031 に続く再生医療等製品の開発・創出にも取り組んでまいります。

以上

なお、詳細資料は 2015 年 6 月 29 日に開示する予定です。

本資料中の開発見通し等の将来に関する記述は、当社が現在得ている情報をもとになされた当社の判断に基づくものであり、既知あるいは未知のリスクや不確実な要素を含んでいます。実際の結果は、様々な要因によりこれら将来に関する記述内容とは大きく異なる可能性があることをご承知ください。

そのような要因の例としては、経済情勢の悪化、法律・行政制度の変化、新製品上市の遅延、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的財産権に対する侵害、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、これらに限定されるものではありません。

本資料は医薬品（開発中の物を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。また、当社の会社説明・事業説明に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

【語句の説明】

J-MIG System

当社独自の技術であるCHO細胞高発現システムを指します。目的のタンパク質を効率よくCHO細胞で発現させるため、組み込んだ目的遺伝子を選択的に強く増幅させる技術です。本システムについて当社研究者が行った発表は、2014年9月8日に米国で開催された学会「IBC's 10th Annual Cell Line Development & Engineering」において1st-prizeを獲得しました。

J-GlycoM, J-GlycoS

遺伝子組換えタンパク質を製造する際に、目的に合った糖鎖組成をもつ糖タンパク質を得るための技術で、当社が長年遺伝子組換え医薬品を開発する過程で確立したものです。具体的には、J-GlycoMは、全ての糖鎖がマンノース型となった糖タンパク質を発現させる技術であり、J-GlycoSは、細胞培養工程における工夫により、高度にシアル酸修飾された糖タンパク質を発現させる技術です。

ESA

Erythropoiesis-stimulating agentの略で赤血球造血刺激因子製剤を指します。当社が製造し、当社とキッセイ薬品工業株式会社が販売する腎性貧血治療薬「エポエチンアルファBS注」と、現在開発中の持続型腎性貧血治療薬JR-131が該当します。

再生医療等製品

平成26年11月25日に薬事法が改正され施行された「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」により医薬品、医療機器等とは別に新たに定義されたカテゴリーです。従来の再生医療で想定される移植用に加工・調製されたヒトの細胞・組織等に加えて、遺伝子治療製品、がん免疫療法に用いる加工された細胞、腫瘍溶解性ウイルスなども含まれます。

BBB(Blood-Brain Barrier : 血液脳関門)

血液から脳内への物質の移行を制限するバリア機能であり、脳の恒常性維持に不可欠となっています。このバリア機能は、脳毛細血管の内側を覆っている血管内皮細胞が、ぴったりと接着し合った密着帯を形成しているものです。タンパク質等の高分子はこの関門を透過し難く、ハンター症候群の治療薬など脳内に届けたい医薬品の壁となっており、通過させる技術の開発が待たれています。

J-Brain Cargo

通常、タンパク質等の大きな分子はBBBを通過することができませんが、J-Brain Cargoはそれを可能にする当社独自の技術です。